

省エネルギー運転（エコドライブ）等研修の実施

我が国は、環境省が平成 20 年 6 月に改正された地球温暖化対策推進法の基本理念である” 2050 年までの脱炭素社会の実現” に向けて、2030 年度の温室効果ガス排出削減目標（2013 年度比 46%削減）の達成に向けて着実に取り組むこととしており、運輸分野等においてもより一層の省エネに対する取り組みの推進が求められています。

このため、公営バス事業においても率先して省エネルギー対策に取り組むとともに、現下の厳しい経営状況に鑑み、職員に対してもコスト意識を持たせ、その効率化に対する意識改革を図ることを目的として、当該研修を平成 18 年度から実施し、コロナウイルス感染症の影響で 2 年間中止となりましたが、今年度で 15 回目となる研修を以下のとおり実施いたしました。

【研修概要】

1. 日 時 令和 4 年 6 月 9 日(木) 13 時～10 日(金) 13 時
2. 場 所 クレフィール湖東 交通安全研修所（滋賀県東近江市）
3. 研修日程 （別紙 「省エネ運転研修プログラム」 参照）
4. 参加会員 東京都、川崎市、横浜市、名古屋市、高槻市、
伊丹市、神戸市、松江市、鹿児島市 合計 9 会員
5. 参加者数 30 名
6. 参加者の感想

今回の研修のアンケートでは、ほとんどの受講者が参考になったと回答。回答の中には、毎年継続して実施してほしい、及びこの研修の成果を職場に報告し何らかの形で実践していきたい等の感想がありました。

なお、主なものとしては以下のとおりでした。

- (1) 日頃の運転もエコドライブを意識しているつもりだったが、アクセルワークをすこし意識するだけで、省燃費運転に繋がっていくことが体感できた。
- (2) エコドライブ研修は自局内でも行っているが、実際にコースを使っただけの研修は難しいため、大変意味のあるものでした。
- (3) 夜間運転の危険性が非常によく理解できた。運転者としてだけでなく歩行者側の夜間の意識も学べることができ、想像以上に夜間の危険性、怖さを知ることができた。
- (4) あおり運転の講習は初めてであり、あおり運転について今まで深く考えていなかったが、講習を受け当局の職員への指導が必要と感じた。
- (5) スライドやビデオ等で夜間や夕刻の講習は行っているが、実際に体感することは大変意味があり必要なことだと思いました。
- (6) イライラしたときに 6 秒待つ、ということをや若い運転士に助言したいと思います。

- (7) あおり運転防止の指導教育をしていないことが今回分かったので、今後行っていくよう上申したいと思います。
- (8) 正しい運転姿勢をすることや、努力視界をすることで、死角を減らすことができることがわかり良かった。
- (9) ドラレコの映像を活用し、ここに考えさせる研修の必要性を感じた。
- (10) 同業他社の地域性の違う事故事例を見る機会がないので大変勉強になった。
- (11) 夜間走行ではハイビームを使用し危険を探しに行く運転が大切だと思った。

7. 研修の受講風景



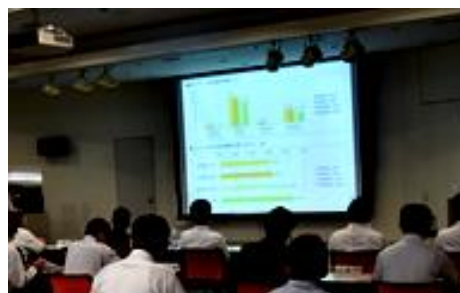
省エネ運転の方法の事前説明を受ける様子



インストラクターから省エネ運転の実技指導を受けている様子



運転時の死角の説明を受けている様子



省エネ運転結果の説明を受ける様子



夜間検証実習で説明を受けている様子



しずてつジャストライン八木講師による講演の様子



NASVA 谷上講師による講演の様子



八木講師と研修生全員等との記念撮影